

第4回近畿本部建設部会年次大会&業績研究発表会

1. 開催日 : 2016年7月2日(土) 13:00~17:00
一部 13:00~13:30 第4回近畿本部建設部会年次大会
二部 13:40~17:00 第4回業績研究発表会
2. 会場 : 近大会館(参加募集 名) 予約時間 13:00~17:00
会議室:会場(定員80名、プロジェクターあり)
控室は、確保しないが、講演者は、部屋の前の方に座席を確保。
森川前市長等も同じ対応。水は、ペットボトルを使用。
〒542-0073 大阪府中央区日本橋1丁目8番17号 会議室

3. 資料代 : 1,000円 (第4回建設部会業績研究発表会論文集)

4. 懇親会 : 5,000円「黒門町界限」

5. 次第

【年次大会】13:00~13:30

司会	山崎副代表
開会宣言	伊藤副代表
建設部会代表 挨拶	杉本代表
幹事の紹介	
年次大会議長(恒例により代表が議長となり年次大会成立宣言)	
報告事項	
(1)平成27年度活動報告	河野幹事長
(2)平成27年度決算報告及び監査報告	藪内会計幹事、三谷会計監査
(3)平成28年度活動計画案	河野幹事長
(4)平成28年度予算計画案	藪内会計幹事
(5)近畿本部建設部会の組織・体制	杉本代表

【業績研究発表会】13:40~16:55

※発表者①~④敬称略・順不同

司会進行	山崎副代表
13:40~13:45	開会挨拶 建設部会代表 杉本 哲雄
13:45~13:50	来賓挨拶 近畿本部 本部長 北村 友博(出欠確認)
13:50~14:10	①甘利 哲夫(第一設計監理株式会社 大阪支店)
14:15~14:35	②安東 尚美(流域調整室技術事務所)
14:35~14:40	質疑応答1
14:40~15:00	③村山 秋弘(株式会社 横河住金ブリッジ)
15:00~15:05	質疑応答2
15:05~15:15	休憩
15:15~15:35	④森 高志(日本国土開発株)
15:35~15:40	質疑応答3
15:40~16:40	特別講演・森川嘉夫瑠氏・森川鑿泉工業所CEO・技術士 (元摂津市長)
16:40~16:45	質疑応答4
16:45~16:50	閉会挨拶 建設部会 副代表 伊藤東洋雄
16:50~16:55	後片付け
	移動
17:00~19:00	別場所で懇親会

※発表者①~④敬称略・順不同

第4回近畿本部建設部会業績研究発表会発表者のエントリー概要

(応募論文執筆者講演)

敬称略・順不同

<p>①本人写真</p> 	<table border="1"> <tr> <td>氏名</td> <td>甘利 哲夫</td> </tr> <tr> <td>勤務先</td> <td>第一設計監理株式会社 大阪支店</td> </tr> <tr> <td>論文題名</td> <td>橋梁の補修調査・設計について</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>(論文要旨)近年、道路構造物の維持管理が重要な社会資本整備として注目されている。とりわけ、橋梁は河川、鉄道、道路等を跨ぐため、落橋などが発生すると甚大な事故に繋がる。このため、橋梁の定期点検、詳細調査、補修補強設計は慎重に行う必要があり、特に構造的な損傷かどうかを判断することが重要である。本稿では、顕著な損傷に対して点検、詳細調査を実施して構造的な損傷でないことを確認した上で補修設計を行った鋼橋、PC橋について3事例をもとに点検・調査結果の評価及び補修設計について報告する。</p> </td> </tr> </table>	氏名	甘利 哲夫	勤務先	第一設計監理株式会社 大阪支店	論文題名	橋梁の補修調査・設計について	<p>(論文要旨)近年、道路構造物の維持管理が重要な社会資本整備として注目されている。とりわけ、橋梁は河川、鉄道、道路等を跨ぐため、落橋などが発生すると甚大な事故に繋がる。このため、橋梁の定期点検、詳細調査、補修補強設計は慎重に行う必要があり、特に構造的な損傷かどうかを判断することが重要である。本稿では、顕著な損傷に対して点検、詳細調査を実施して構造的な損傷でないことを確認した上で補修設計を行った鋼橋、PC橋について3事例をもとに点検・調査結果の評価及び補修設計について報告する。</p>	
氏名	甘利 哲夫								
勤務先	第一設計監理株式会社 大阪支店								
論文題名	橋梁の補修調査・設計について								
<p>(論文要旨)近年、道路構造物の維持管理が重要な社会資本整備として注目されている。とりわけ、橋梁は河川、鉄道、道路等を跨ぐため、落橋などが発生すると甚大な事故に繋がる。このため、橋梁の定期点検、詳細調査、補修補強設計は慎重に行う必要があり、特に構造的な損傷かどうかを判断することが重要である。本稿では、顕著な損傷に対して点検、詳細調査を実施して構造的な損傷でないことを確認した上で補修設計を行った鋼橋、PC橋について3事例をもとに点検・調査結果の評価及び補修設計について報告する。</p>									
<p>②本人写真</p> 	<table border="1"> <tr> <td>氏名</td> <td>安東 尚美</td> </tr> <tr> <td>勤務先</td> <td>流域調整室技術事務所</td> </tr> <tr> <td>論文題名</td> <td>治水勘案地域における高さを変えない耕地利用</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>(論文要旨) 治水事業の対象としては、山地では土砂災害、中流域では氾濫、沿岸では高潮津波対策がなされ、防御対象としては道路や家屋が重要視され、現象面を把握しての減災も検討されるようになってきた。本稿では、T P Pで更に重要視されるであろう農業生産の自給化も視野に、①1953年水害履歴の小規模地すべり地である和東用地での60年ぶりの耕作復活の試み、②1600年代から1917年まで破堤氾濫を繰り返した連続堤と天井川で防御する木津川の耕作地のありようと竹林分布、③江戸時代から干満潮位の間に入浜式塩田が築かれ流下式への転換を経て1971年に廃止され防潮堤や水門で守られる塩田からサツマイモ畑の利用切り替えと可変排水管や海域への伏流水、を取り上げる。</p> </td> </tr> </table>	氏名	安東 尚美	勤務先	流域調整室技術事務所	論文題名	治水勘案地域における高さを変えない耕地利用	<p>(論文要旨) 治水事業の対象としては、山地では土砂災害、中流域では氾濫、沿岸では高潮津波対策がなされ、防御対象としては道路や家屋が重要視され、現象面を把握しての減災も検討されるようになってきた。本稿では、T P Pで更に重要視されるであろう農業生産の自給化も視野に、①1953年水害履歴の小規模地すべり地である和東用地での60年ぶりの耕作復活の試み、②1600年代から1917年まで破堤氾濫を繰り返した連続堤と天井川で防御する木津川の耕作地のありようと竹林分布、③江戸時代から干満潮位の間に入浜式塩田が築かれ流下式への転換を経て1971年に廃止され防潮堤や水門で守られる塩田からサツマイモ畑の利用切り替えと可変排水管や海域への伏流水、を取り上げる。</p>	
氏名	安東 尚美								
勤務先	流域調整室技術事務所								
論文題名	治水勘案地域における高さを変えない耕地利用								
<p>(論文要旨) 治水事業の対象としては、山地では土砂災害、中流域では氾濫、沿岸では高潮津波対策がなされ、防御対象としては道路や家屋が重要視され、現象面を把握しての減災も検討されるようになってきた。本稿では、T P Pで更に重要視されるであろう農業生産の自給化も視野に、①1953年水害履歴の小規模地すべり地である和東用地での60年ぶりの耕作復活の試み、②1600年代から1917年まで破堤氾濫を繰り返した連続堤と天井川で防御する木津川の耕作地のありようと竹林分布、③江戸時代から干満潮位の間に入浜式塩田が築かれ流下式への転換を経て1971年に廃止され防潮堤や水門で守られる塩田からサツマイモ畑の利用切り替えと可変排水管や海域への伏流水、を取り上げる。</p>									
<p>③本人写真</p> 	<table border="1"> <tr> <td>氏名</td> <td>村山 秋弘</td> </tr> <tr> <td>勤務先</td> <td>株式会社横河住金ブリッジ</td> </tr> <tr> <td>論文題名</td> <td>橋梁架設工事等における重大災害防止への提案～なぜ、落下災害は繰り返されるのか。</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>(論文要旨) 広島橋桁落下事故や来島架設桁落下事故等の橋桁落下による重大災害が発生している。この度も、神戸にて橋桁落下災害が発生して尊い命(2名)がなくなっている。なぜ、このような重大災害がなくなるのかを橋桁落下事故例を挙げ、当時の社会的背景、事故当時の原因、作業状況や安全対策より見えてくる安全対策の在り方を考える。そこから考えられる重大災害防止の提案を行うものである。提案内容は、①施工計画時に仮設備のFCM(崩壊させないための部材)確認、②仮設備及びその作業等にフェールセーフ機能を持たせること。③作業時等には一体感を醸成させる工夫が必要。</p> </td> </tr> </table>	氏名	村山 秋弘	勤務先	株式会社横河住金ブリッジ	論文題名	橋梁架設工事等における重大災害防止への提案～なぜ、落下災害は繰り返されるのか。	<p>(論文要旨) 広島橋桁落下事故や来島架設桁落下事故等の橋桁落下による重大災害が発生している。この度も、神戸にて橋桁落下災害が発生して尊い命(2名)がなくなっている。なぜ、このような重大災害がなくなるのかを橋桁落下事故例を挙げ、当時の社会的背景、事故当時の原因、作業状況や安全対策より見えてくる安全対策の在り方を考える。そこから考えられる重大災害防止の提案を行うものである。提案内容は、①施工計画時に仮設備のFCM(崩壊させないための部材)確認、②仮設備及びその作業等にフェールセーフ機能を持たせること。③作業時等には一体感を醸成させる工夫が必要。</p>	
氏名	村山 秋弘								
勤務先	株式会社横河住金ブリッジ								
論文題名	橋梁架設工事等における重大災害防止への提案～なぜ、落下災害は繰り返されるのか。								
<p>(論文要旨) 広島橋桁落下事故や来島架設桁落下事故等の橋桁落下による重大災害が発生している。この度も、神戸にて橋桁落下災害が発生して尊い命(2名)がなくなっている。なぜ、このような重大災害がなくなるのかを橋桁落下事故例を挙げ、当時の社会的背景、事故当時の原因、作業状況や安全対策より見えてくる安全対策の在り方を考える。そこから考えられる重大災害防止の提案を行うものである。提案内容は、①施工計画時に仮設備のFCM(崩壊させないための部材)確認、②仮設備及びその作業等にフェールセーフ機能を持たせること。③作業時等には一体感を醸成させる工夫が必要。</p>									
<p>④本人写真</p> 	<table border="1"> <tr> <td>氏名</td> <td>森 高志</td> </tr> <tr> <td>勤務先</td> <td>日本国土開発(株)</td> </tr> <tr> <td>論文題名</td> <td>自社保有技術紹介～回転式破砕混合工法(ツイスター工法)～</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>(論文要旨) 回転式破砕混合工法(ツイスター工法)とは、円筒内で高速回転する複数本のフレキシブルなチェーンの打撃力で、地盤材料の破砕・細粒化(解砕)と、添加材料との均質な混合とを同時に行うものである。小稿は弊職が技術士建設部門で合格し、総合技術監理部門でも小論文に採用した大和川スーパー堤防の所長で従事した亀の瀬地すべり地帯における風化岩を有効利用したツイスター工法の技術提案・施工管理全般等について報告するものである。</p> </td> </tr> </table>	氏名	森 高志	勤務先	日本国土開発(株)	論文題名	自社保有技術紹介～回転式破砕混合工法(ツイスター工法)～	<p>(論文要旨) 回転式破砕混合工法(ツイスター工法)とは、円筒内で高速回転する複数本のフレキシブルなチェーンの打撃力で、地盤材料の破砕・細粒化(解砕)と、添加材料との均質な混合とを同時に行うものである。小稿は弊職が技術士建設部門で合格し、総合技術監理部門でも小論文に採用した大和川スーパー堤防の所長で従事した亀の瀬地すべり地帯における風化岩を有効利用したツイスター工法の技術提案・施工管理全般等について報告するものである。</p>	
氏名	森 高志								
勤務先	日本国土開発(株)								
論文題名	自社保有技術紹介～回転式破砕混合工法(ツイスター工法)～								
<p>(論文要旨) 回転式破砕混合工法(ツイスター工法)とは、円筒内で高速回転する複数本のフレキシブルなチェーンの打撃力で、地盤材料の破砕・細粒化(解砕)と、添加材料との均質な混合とを同時に行うものである。小稿は弊職が技術士建設部門で合格し、総合技術監理部門でも小論文に採用した大和川スーパー堤防の所長で従事した亀の瀬地すべり地帯における風化岩を有効利用したツイスター工法の技術提案・施工管理全般等について報告するものである。</p>									

(特別講演)

本人写真	氏名	森川 薫
	勤務先	(株)森川鑿泉工業所
	論文題名	地下水位・水温・GPSからの地震予知への挑戦
	(論文要旨)	<p>摂津市長在職中、阪神淡路大震災（兵庫県南部地震M7.3）を経験し職員数名で自主研究グループを立ち上げ地下水位・水温・γ線から地震予知に挑戦。しかしながら、東北大震災に於いても同様に地震専門家は挙って想定外の規模で起こる地震予知は出来ないとマスコミを通して発表される度に悔しい思いを抱き続けた。「地震予知への挑戦 20年の検証」を纏めた報告書のご縁で、本年（一社）地震予兆研究センター（EPRC）の要請を受け理事に就任。地下水位・水温の異常値から2～3日以内に地震発生80%以上の確率を示すことから、今後、GPSとのコラボで地震発生場所が特定出来れば2～3日前に地震規模も想定して地震予知を可能にしていきたい。</p>



以上